



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月14日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	8,109	79.0	580	65.9	588	50.0	331	-
2019年3月期第3四半期	4,531	62.4	349	43.0	392	46.9	△2,399	-

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 264百万円(-%) 2019年3月期第3四半期 △2,397百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	36.54	36.46
2019年3月期第3四半期	△299.82	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	10,708	4,693	41.3	486.06
2019年3月期	10,212	4,371	42.4	479.26

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 4,420百万円 2019年3月期 4,325百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	22.00	22.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,100	46.0	820	103.5	820	82.2	533	123.5	59.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※当社は、予算編成を通期ベースで行っており、業績の進捗管理およびその評価は通期でのみ実施しているため、第3四半期(累計)期間における業績予想については、開示していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 1社 （社名）株式会社エムアップ分割準備会社、除外 1社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	9,095,297株	2019年3月期	9,026,397株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	194株	2019年3月期	118株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	9,083,027株	2019年3月期3Q	8,003,612株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法の範囲の変更)	9
(セグメント情報等)	10
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用情勢の改善と個人消費の持ち直しにより、全体としては緩やかに回復しているものの、そのテンポは鈍化しております。先行きについても、当面は弱さが残る中で回復が続くと期待されておりますが、消費税率引き上げ後の消費者マインドや、通商問題をめぐる海外経済の動向などから、慎重さも見られております。

当社の事業領域であるインターネット関連市場は、スマートフォンをはじめとするモバイル端末が生活にとって最も身近なデバイスとなるまで普及し、インターネットの利用時間やそれを介したサービス消費も増加するなど、安定的な成長と拡大が続いております。一方で、テクノロジーの進化や新たなビジネス、サービスの創出は加速しており、加えて2020年には第5世代移動通信システムの商用化が予定されるなど、事業環境は目まぐるしく変化しております。

音楽やアーティスト関連の市場動向といたしましては、2019年の音楽ソフト（オーディオレコード及び音楽ビデオ合計）の生産金額は2,291億円（前年同期比4.7%減）となりました（出所：一般社団法人日本レコード協会）。一方で、音楽配信ではストリーミングサービスの利用が急拡大しており、新たな市場が形成されております。ライブ、コンサート市場は、2019年上半年（1月から6月）の市場規模が1,573億円（同9.4%増）となり、引き続き拡大しております（出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会）。

音楽の市場全体としては堅調に推移する一方で、利用者の志向が「モノ消費」から「コト消費」へと移行しており、変化する事業環境を的確に捉え、競争力を維持、向上させていくことが、より重要となってきております。

このような外部環境の中、当社グループでは、アーティストを中心として、タレントや声優、アニメまで幅広いジャンルにおいて、ファンクラブサイトを事業の軸としながら、電子チケットやeコマース、キャラクター、スタンプ、音楽、電子書籍といった多岐にわたるデジタルコンテンツの配信に至るまで、複合的な事業展開をしてまいりました。数多くの有力アーティストやコンテンツを保有するという優位性を生かし、それらを相互活用することでグループ全体でのシナジー効果を発揮させ、事業基盤の拡大と多様化を進めてまいりました。

また、VRや電子チケットなど今後の成長分野での新たな事業領域の開拓と収益の獲得も引き続き推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は8,109百万円（前年同期比79.0%増）、営業利益は580百万円（前年同期比65.9%増）、経常利益は588百万円（前年同期比50.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は331百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2,399百万円）となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①コンテンツ事業

コンテンツ事業では、主にスマートフォン向けにファンクラブサイト運営や各種デジタルコンテンツ配信、アプリの提供などを行っております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、引き続きアーティスト等の獲得による新規ファンクラブの開設を進めるとともに、会員向けのチケット先行販売や会員限定のイベントの実施などにより、収益の源泉となる新たな有料会員の獲得に取り組んでまいりました。加えて、年額制のファンクラブの採用や、サイト及びサービスのアプリ化などを進めることで、多様化する利用者ニーズへの対応と、収益獲得のための間口の拡大にも努めてまいりました。

また、電子チケット及びチケットトレードサービスのファンクラブサイトへの導入や、サイトのリニューアルなどによって、既存サイトにおける会員数の維持向上や単価上昇のための施策を講じてまいりました。

また、これまでのコンテンツ配信で培った経験やノウハウを活用し、動画配信分野の強化並びに新規事業の開発にも引き続き努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業の売上高は6,700百万円(前年同期比81.1%増)、セグメント利益は1,063百万円(前年同期比137.8%増)となりました。

②EC事業

EC事業につきましては、主に当社グループの運営するファンクラブサイト等を通じて、CD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品と、アーティストグッズを販売しております。

当第3四半期累計期間においては、アーティストのオフィシャル通販サイトの開設や、ファンクラブ限定の先行販売などを実施することで、収益を拡大させてまいりました。また、ライブやイベント会場の物販でもスムーズに利用できるQRコード認証とスマホ決済サービスや、独自のPOSレジシステムといった新規サービス開発にも注力しており、新たな取り組みとして、グッズの事前販売・会場受け取りサービスも開始するなど、eコマースの枠を超え、販売機会を増加させております。

アーティスト関連以外では、人気アニメ「エヴァンゲリオン」の公式オンラインストアの制作、運営を行っており、他社とのコラボレーションや商品の先行受注、海外利用者向け販売ページの開設など、様々な取り組みを実施してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるEC事業の売上高は536百万円(前年同期比16.8%増)、セグメント利益は329百万円(前年同期比146.5%増)となりました。

③電子チケット事業

電子チケット事業には、電子チケット及びチケットトレード、並びにそれらに付随する各種サービスからの収益により構成されております。音楽のライブはもちろんのこと、アイドルグループの握手会等のイベント、プロ野球やフィギュアスケートといったスポーツ、遊園地などのレジャー施設まで幅広く電子チケットサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、有力アーティストのライブやスポーツイベントへの電子チケットの導入を進めてまいりました。特に、6月より施行されたチケット不正転売禁止法に対応する、ライブやイベントへ行けなくなった人が他者に適法、適切にチケットを譲渡できる公式の仕組みであるチケットトレードサービスについては、業界最大手のプレイガイドの1社である株式会社イープラスと、子会社を通じて資本業務提携を締結し、公式2次流通のスタンダードとなるべく、サービスの普及を推進してまいりました。チケットトレードでは、利用者の取引の成立をより推進すべく、会員向けのプレミアムサービスも開始いたしました。

電子チケット周辺領域のサービスといたしましては、プロ野球の公式カードコレクションアプリにて、あらたに1球団のサービスを開始し、合計で8球団のアプリを展開するにいたりました。また、電子チケットから購入でき、ライブをより楽しむためのデジタルコンテンツパックサービスの提供も開始いたしました。

加えて、アイドルグループのアプリの新規リリースやリニューアルにも取り組んでまいりました。今後についても、カードコレクションアプリのスポーツ以外への横展開や、新たな電子チケット付加サービスの開発、提供を進めることで、周辺領域でのビジネスも拡大させていくことを計画しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるチケット事業の売上高は822百万円(前年同期比180.6%増)、セグメント損失は162百万円(前年同期はセグメント利益122百万円)となりました。

④その他事業

その他事業には、上記3つのセグメントに属さない主に新規事業開発を行う連結子会社の収益等が計上されております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、将来の収益獲得に向けた事業育成を行ってきたことから、売上高は64百万円(前年同期比23.6%減)、セグメント損失は33百万円(前年同期はセグメント利益6百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は10,708百万円(前連結会計年度末比4.9%増)となりました。

流動資産は7,966百万円(同7.8%増)となりました。主な内訳は、現金及び預金6,032百万円(同12.6%増)、売掛金1,290百万円(同8.1%増)となっております。

固定資産は2,741百万円(同2.7%減)となりました。主な内訳は有形固定資産511百万円(同6.5%増)、のれん1,037百万円(同13.6%減)となっております。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は5,848百万円(同3.3%増)となりました。主な内訳は、買掛金3,129百万円(同50.5%増)であります。

固定負債は166百万円(同6.4%減)となりました。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は4,693百万円(同7.3%増)となりました。主な内訳は、資本金296百万円(同16.8%増)、資本剰余金3,669百万円(25.3%減)、利益剰余金477百万円(同157.2%減)であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、雇用及び所得環境の着実な改善が続く中で、個人消費も持ち直し、消費者物価も緩やかに上昇するなど、緩やかに回復が続くと期待される一方で、消費税増税の影響や、海外景気の先行き、通商問題の動向などが懸念され、一部に弱さと慎重さが見られております。

当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの利用が定着し、それに伴ってスマートフォンを通じたサービス消費が増加、市場も大きく拡大しており、モバイル及びインターネット関連ビジネスを取り巻く環境は日々変化しております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、アーティストやキャラクター等のコンテンツを中心に、ファンクラブサイトを事業の軸に据え、新規アーティスト等の獲得、既存サイトへのファンメールやWEBラジオ、電子チケットとチケットトレードといった新サービスの追加によって、新規有料会員の獲得と既存会員の維持や顧客単価の向上を進めております。

加えて、スマートフォン向けの動画やアプリ、VRを中心とした先端表現技術を用いたライブ動画の制作や配信など、これまでにない事業領域の開拓を進めております。子会社等を通じた他社との事業提携、並びに新規事業の開発にも取り組んでおります。とりわけ、電子チケット分野においては、子会社である株式会社エンタテインメント・ミュージック・チケットガードにおいて、大手プレイガイドとの業務資本提携を締結し、今後の事業展開を加速していくことを計画しております。今後についても、引き続き電子チケットをはじめとし、アプリ開発やVRコンテンツ制作、配信等にも注力してまいります。

また、2019年3月期には、EMTG株式会社を子会社化したことで事業基盤は大きく拡大いたしました。そのため、今後については、拡大した事業基盤に基づいた経営資源の最適分配を行うと同時に、役割や業務内容の明確化を図り、それぞれの責任と権限において迅速な意思決定を行うことにより、さらなる事業拡大や経営人材の育成等を進めていくことで、持続的に企業価値の向上を図っていくことができる体制を構築することが望ましいと判断し、持株会社体制へ移行することを決定いたしました。

当社といたしましては、これまで以上に迅速な事業展開を図るべく、独立性を持たせた子会社を通じて新規事業の開発を進めていく方針であります。しかしながら、スマートフォン向けコンテンツ市場や新規事業領域は、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れが早く、それらを的確に予測することは困難であります。また、子会社等を通じた新規事業はこれまで当社が手掛けてこなかった新規分野であり、不確定な要素も多く含まれ、当社が予期せぬ先行投資が生じることや先行投資に見合う収益が計上されないことも想定されます。そのため、新規サイトやサービス及び子会社等を通じた新規事業に関しましては、事業の立ち上がりの状況などを見極め、業績予想は適時見直していく方針です。

費用面では、販売に比例し発生するロイヤリティや、子会社等における新規事業への先行投資、採用の強化に伴う人材関連費用の増加などを見込んでおります。

以上により、今期(2020年3月期)の見通しについては、売上高10,100百万円(前年同期比46.0%増)、営業利益820百万円(前年同期比103.5%増)、経常利益820百万円(前年同期比82.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益533百万円(前年同期間2,269百万円の損失計上)を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,357,977	6,032,247
売掛金	1,193,977	1,290,585
商品	27,631	27,483
仕掛品	1,410	1,294
その他	816,139	615,578
貸倒引当金	△767	△595
流動資産合計	7,396,369	7,966,595
固定資産		
有形固定資産	479,939	511,358
無形固定資産		
のれん	1,201,864	1,037,973
顧客関連資産	437,277	398,694
その他	35,395	77,365
無形固定資産合計	1,674,537	1,514,034
投資その他の資産		
その他	739,743	792,624
貸倒引当金	△77,927	△76,602
投資その他の資産合計	661,815	716,021
固定資産合計	2,816,292	2,741,414
資産合計	10,212,661	10,708,009
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,079,272	3,129,412
未払金	2,502,129	288,052
前受金	738,202	1,016,527
預り金	184,631	1,004,054
未払法人税等	50,682	189,435
賞与引当金	26,999	18,804
役員賞与引当金	30,000	30,000
その他	50,800	172,046
流動負債合計	5,662,720	5,848,333
固定負債		
資産除去債務	38,157	38,585
その他	139,870	128,072
固定負債合計	178,028	166,658
負債合計	5,840,748	6,014,991
純資産の部		
株主資本		
資本金	253,791	296,347
資本剰余金	4,912,926	3,669,734
利益剰余金	△833,416	477,094
自己株式	△134	△327
株主資本合計	4,333,166	4,442,849
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7,206	△22,084
その他の包括利益累計額合計	△7,206	△22,084
新株予約権	10,297	7,518
非支配株主持分	35,655	264,734
純資産合計	4,371,912	4,693,018
負債純資産合計	10,212,661	10,708,009

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,531,833	8,109,852
売上原価	3,198,226	5,928,383
売上総利益	1,333,607	2,181,468
販売費及び一般管理費	983,695	1,600,874
営業利益	349,911	580,594
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	2,239	1,325
受取賃貸料	5,094	5,456
為替差益	1,398	-
投資有価証券売却益	1,396	-
持分法による投資利益	17,760	-
債務免除益	14,423	-
その他	370	2,605
営業外収益合計	42,684	9,387
営業外費用		
為替差損	-	298
その他	-	921
営業外費用合計	-	1,220
経常利益	392,596	588,761
特別利益		
新株予約権戻入益	2,016	-
固定資産売却益	506	6,253
段階取得に係る差益	39,681	-
特別利益合計	42,204	6,253
特別損失		
固定資産売却損	157	-
固定資産除却損	-	2,336
投資有価証券評価損	11,999	-
減損損失	2,664,745	-
特別損失合計	2,676,901	2,336
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,242,101	592,679
法人税、住民税及び事業税	145,454	255,425
法人税等調整額	11,712	57,437
法人税等合計	157,166	312,862
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,399,268	279,816
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	404	△52,100
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,399,672	331,917

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,399,268	279,816
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,424	△14,877
その他の包括利益合計	1,424	△14,877
四半期包括利益	△2,397,844	264,938
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,398,248	317,039
非支配株主に係る四半期包括利益	404	△52,100

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社エムアップ分割準備会社を連結の範囲に含めておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	EC事業	電子 チケット 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,695,648	459,563	293,152	4,448,363	83,469	4,531,833	-	4,531,833
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	3,704	-	-	3,704	985	4,689	△4,689	-
計	3,699,352	459,563	293,152	4,452,068	84,455	4,536,523	△4,689	4,531,833
セグメント 利益	447,233	133,465	122,883	703,583	6,491	710,074	△360,162	349,911

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△360,162千円には、セグメント間取引消去△4,689千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△355,473千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ 事業	EC事業	電子 チケット 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	6,687,924	536,766	820,679	8,045,370	64,481	8,109,852	-	8,109,852
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	12,848	-	2,011	14,860	29	14,889	△14,889	-
計	6,700,772	536,766	822,691	8,060,230	64,511	8,124,741	△14,889	8,109,852
セグメント利益又は 損失(△)	1,063,485	329,005	△162,386	1,230,104	△33,615	1,196,489	△615,894	580,594

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△615,894千円には、セグメント間取引消去△14,889千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△601,005千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。